

# 学校でも土壤医検定の知識が役立っており 卒業後も活かしたい

—土壤医検定試験合格者の声（その1）—

岩下 霞\*

## 1 はじめに

私は、現在新潟県農業大学校の稲作専攻コースに通っています。大学校の稲作実習では、1年次に主食用米の「コシヒカリ」や「ゆきん子舞」、「こしいぶき」や「新之助」などの新潟県の主力品種を栽培し、2年次に入り、本年度は個人課題として県内主力酒米の「越淡麗」を栽培しています。

大学校での「越淡麗」栽培の課題は、これまで茎数の歩留まりが低く、目標穂数が確保できないため減収につながっていることです。そこで、2年次の卒論のテーマとして、ケイ酸加里を基肥に散布することにより、根の活力向上による目標茎数(穂数)確保をテーマとし、卒論に取り組むこととしています。

## 2 土壤医検定を受験したきっかけ

私が農業高校に在籍していた時、稲作の課題研究の栽培に取り組むための肥料設計を行いました。当時、稲の生育に対する適正施肥量や過剰生育で病気が発生しやすいなど、土壤肥料に関する知識が少なかったため、先生と話し合い、施肥設計をしていきました。この時、自分だけでは知識不足から上手く出来なかつたろうと実感していました。そして、いつか本格的に土壤肥料の知識を身につけた



いと考えていました。

現在、私が在学している新潟県農業大学校では、一年次の11月くらいから次年度の卒論準備を行います。この頃学校から土壤医受験の案内があり、高校の頃の土壤肥料の設計の時の思いがよみがえり、土壤医3級の受験を決意しました。

## 3 試験対策について

学校では「土壤医」の取得を推奨しているため、土壤医のテキスト類の斡旋はもとより、土壤医検定受験者のための研修会を行っています。これ以外に、私の主な勉強法では、過去問の出題傾向をある程度掴み、テキストを読み進めることが有効であったと考えています。

私は農業高校、農業大学校の授業等を通じて、土壤肥料についても勉強してきたので、専門用語が出てきても比較的楽に覚えられた

\*新潟県農業大学校 稲作経営科2学年

と考えています。また、土壤医のテキストがわかりやすかったことも、知識を整理するために、非常によかったと思っています。

#### 4 受験勉強の成果を生かす

現在、卒論の課題に取り組んでいます。課題の取り組みにあたり、土壤医検定の知識が非常に役立っています。例えば、基肥散布前の土壤ケイ酸成分量の現状を把握するため、5点法で土のサンプルを採取し、土壤分析を行うこととしました。施肥評価のために土壤

分析が必要だと考えたためです。

また、学校のグループ課題では、複合経営を目指し「えだまめ」を栽培しています。畑の準備では土壤中pH矯正のための石灰の散布や、基肥では「えだまめ」特有の根粒菌の窒素を考慮した基肥量の設定など土壤肥料の知識を活用する場面が多くなっています。

卒業後は農業関係に進み、土壤の専門的知識を活用できればと考えています。

今回3級に合格できたので、今後、より専門的な2級や1級にも挑戦したいです。

